

特別講演 1

「膠原病診療における抗核抗体の意義」

金沢大学医薬保健研究域 医学系皮膚科 教授

竹原 和彦 先生

膠原病における抗核抗体は、近年新規抗体の発見とその測定法の普及により、臨床的有用性が益々高まっている。全身性強皮症においては、抗 scl-70 抗体と肺線維症、抗セントロメア抗体と肺高血圧、抗 RNAPolymerase 抗体と腎クリーゼなどの強い相関が知られており、今後起こりうる内臓合併症の予知因子としても有用である。皮膚筋炎においても、内臓悪性腫瘍の合併と相関する抗 TIF 抗体、亜急性の間質性肺炎と相関する抗 ARS 抗体（抗 Jo-1 抗体を含む）、急速進行性間質性肺炎と相関する抗 MDA-5 抗体、典型的な皮膚筋炎と相関する抗 M-2 抗体などが知られており、多様性のある疾患の分類にも役立っている。本日は、抗核抗体の実施について、全身性強皮症並びに皮膚筋炎を中心に講演し、治療方針決定の参考になることについても概説したい。